

# 天馬の章

大耕岡部

(75)



滝美清さんは、よくわたしの演劇を観劇にいらした。野球帽を深くかぶり、うつむいて受付を通る。どんなに変装しても滝美清だとすぐにわかった。変装はどんなに上手にしたつもりでも見破られるものである。まして、益暮れには欠かさず見てい

「侠」で主役を張っていた江戸つ子は「あいつはお侠な娘だ」と冷やかし気味に使つたりする。その言葉をちようだいした。

夏木マリさんが寅さんに出演していた頃である。山田洋次監督とも樂屋の夏木さんの部屋の前で擦れ違つたが、わたしはそ

た寅さんの滝美清である。変装ごとに騙されるはずがない。滝美清さんはわたしの演劇を見に来たわけではなく、わたしの演劇に出演している夏木マリさんを見に来ただけである。夏木さんは、わたしの舞台「お

つぽを向いたままであつた。わたしには好きな人にそっぽを向く悪い癖がある。これでどれほど損をしたことか。滝美清さんの人生は壯絶である。業界紙かなにかの新聞記者だった父と過ごした上野の長屋

初期の作品「霧の旗」は全編息をのむ。脚本はこれも橋本忍である。すでに、女優倍賞千恵子さんのすべてが表現されている。倍賞千恵子さんの日常も聞いた話ではあるが面白

## 「無名の民」を描く

住まい時代。結核を患つた浅草時代や踊り子との弾むようないい。庶民派の名にふさわしい。ひと癖もふた癖もある監督や俳優が葛飾柴文の根っからのいい優ましい友好関係。どれもこの時代や時代や松竹の助監督時代のエピソードにもフーテンの寅さんが生きている。山田洋次監督の満州時代や松竹の助監督時代のエピソードにも日向と陰、表と裏がある。「あいつ、バツ力だなあ」。益

や正月に庶民は落語の主人公のよつたを満足した。マドンナに振られ定調和の納得をしたのである。滝美清さんは相当の勉強家であつたそうである。そして、その勉強家ぶりを微塵も人に感じさせなかつたそうである。山田洋次監督しかりである。寅さん映画の後味のよさはそれである。「滝美さん、あなたを意識してますよ」。夏木マリさんのマネジャーにいわれたことがある。光榮であった。この時代のわたしは底辺の無名の人を主人公にした舞台を書いていた。「お侠」も、そのひとつである。無告の民である。（松浦市出身）